

2022 年度 小委員会活動成果報告

(2023 年 1 月 30 日作成)

小委員会名	固体音小委員会	主 査 名：平光 厚雄 就任年月：2021 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	環境工学委員会 (音環境運営委員会)	委員長名：秋元 孝之 主 査 名：坂本 慎一
設 置 期 間	2019 年 4 月 ～ 2023 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	<p>床衝撃音および固体音の測定、評価、予測法の検討を行い、日本建築学会環境基準 (AIJES) 等に反映させる。</p> <p>初年度～2 年度：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ケーススタディによる床衝撃音予測計算の課題の抽出、整理。 ・ ケーススタディ用実測データの収集。 ・ タイヤ衝撃源とボール衝撃源による重量床衝撃音の関係性の分析、整理。 ・ 固体音関連の海外規格の調査、海外の研究動向調査。 <p>3 年度～4 年度：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 固体音予測手法の検討。 ・ 固体音関連の海外規格の調査、海外の研究動向調査。 	
委員構成 (委員名 (所属))	委員公募の有無：無	
	<p>主査：平光厚雄 (建築研究所)</p> <p>幹事：田中ひかり (大成建設)、平川侑 (国土技術政策総合研究所)</p> <p>委員：朝倉巧 (東京理科大学)、稲留康一 (奥村組)、井上勝夫 (日本大学理工)、漆戸幸雄 (フジタ)、笠井祐輔 (日本建築総合試験所)、中澤真司 (鉄建建設)、濱田幸雄 (日本大学工)、藤橋克己 (前田建設工業)、矢入幹記 (鹿島建設)、山内崇 (戸田建設)</p>	
設置 WG (WG 名：目的)		
2022 年度予算	55,000 円	ホームページ公開の有無：無 委員会 HP アドレス：

項 目	自 己 評 価
委員会開催数	5 回 (年度内計画を含む)
刊行物 (シンポジウム資料等は除く)	
講習会	
催し物 (シンポジウム・セミナー等) * 能力開発支援事業委員会 承認企画	
大会研究集会	
対外的意見表明・パブリックコメント等	
目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 複数の手法で駆動点インピーダンス予測計算の整理を行った。 2. 床衝撃音遮断性能の評価方法に関して、情報共有を行い、議論を行った。 3. 2022 年度大会の OS の内容について検討を行った。
委員会活動の問題点 ・ 課題	1. コロナ禍における、小委員会の効率的なりモート開催および活動の活性化

- * 小委員会活動成果報告書は本書式を基本とする。ただし、それぞれの本委員会において活動実績を報告する共通項目があれば、最下段に項目を追加して記述してもよい。
- * 中間年度には中間評価を、最終年度には最終評価としての自己評価を記入すること。

環境工学委員会用 自己評価欄

2022 年度 小委員会活動 自己評価

(中間年度評価・最終年度評価)

総合評価 (4 段階評価)	A	B	C	D
<p style="text-align: center;">総合評価に関する 自由記述欄 (理由、特記事項等)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 複数の手法で駆動点インピーダンス予測計算の整理を行った。 2. 品確法における床衝撃音遮断性能の評価方法に関して、情報共有を行い、議論を行った。 3. 2022 年度大会の OS を企画し、予測、測定、評価、対策、木造、ISO 規格といった床衝撃音に関する最近の話題について 5 編の発表が行われた。 4. コロナ禍の中、5 回（予定含）の小委員会を開催することができた。 			

- 総合評価は 4 段階(A>B>C>D)にて、自己評価すること。
- 中間年度における自己評価は、単年度の活動計画・目標に対する達成度にて、最終年度における自己評価は、小委員会の設置目標に対する達成度にて評価する。自己評価の目安は以下の達成度レベルを参照のこと。
 - A 評価：小委員会設置目標に対し、80%以上の達成度
 - B 評価：小委員会設置目標に対し、70%から 80%の達成度
 - C 評価：小委員会設置目標に対し、60%から 70%の達成度
 - D 評価：小委員会設置目標に対し、60%以下の達成度
- 小委員会の活動に対し、第三者的評価・外部評価（シンポジウム、セミナー等の催し物を開催した場合に収集した参加者の評価など）に相当する情報がある場合には、その内容も記述すること。